



宮崎 冴子 先生
共通教育センター特任教授

『キャリア形成・能力開発』
「生きる力」をはぐくむために



〈文化書房博文社 2008.1〉
[所在] 図・開架・図書
[請求記号] 375.6 / Mi 88

キャリア教育とは「生き方教育」です

「ご著書に関する研究をはじめたきっかけを教えてください。」

原点は長男が生まれた時に、この子をどう育てようか、また、どの時点でどのように刺激のシャワーを浴びたら、うまい具合に育つのかなと考えたことが発端です。その後、子育てに翻弄されながら、夫の転勤で転居を繰り返して、海外にも住んで細切れの人生を送っているうちに、私自身もこれからどう生きていくのか、私の中の何がどのように役立つのかなと考えました。つまり、精神論だけではなく、冷静な分析によるキャリアの再構築の必要性を感じたのです。大学院での修士論文を皮切りに、「生涯各期の発達課題」「確かな学力と豊かな人間性」に関わる社会調査を何年も繰り返し、まずは知能や能力領域、生涯キャリア発達の「能力開発構造図」

意欲や責任感が人を突き動かす

「先生の研究テーマと内容を教えてください。」

研究テーマは「生涯発達と自立」です。近年、「仕事で自分に合わない」「イメージと違う」といって辞める早期離職者や、ニート、フリーターが増え、その兆しはすでに在学中にあるといわれます。ニートの人三四人に聞き取り調査をしました。現状へのきょうかけは二五〜三四歳は職場のコミニケーション不足から辞めたが、再就職に繋がらないという人の割合が高かったのです。そういう課題をふまえて、私は今、子育て中やニートの両親、小中学校の先生向けの授業改善の研修会等を継続しています。また、全国の官公庁・企業の管理職に

世界に通用する人材を育てたい

「これからの展望は？」

海外に行く、「教育は国を興す力」と痛感して帰ってきますが、いまや日本の教育力、国力こそが問われています。私は、お世話になった三重大と三重県を元気にし、日本の教育を元気にしたいのです。そして世界中どこに行っても通用する人材の育成が目標です。失敗してもめげずに頑張る人を応援したいですね。

クラブ活動で社会性を磨く

「学生時代の思い出はありますか？」

在学中は吹奏楽団員で、毎年の合宿は高田本山専修寺でお世話になりました。朝は水が冷たくて顔を洗うのも大変、朝から晩まで練習ばかりで夢に音符が出てくる始末。でも、これで鍛えられたかな。四年生の時に、三重大初の吹奏楽コンクール全国大会(新宿厚生年金会館)に進出し、ソロ演奏をしたのが懐かしい思い出です。あちこち手分けして出場費用の寄付集めもしました。みんなでチームワークを組んで仕上げている活動の中で社会性が身に付いたかなと、今になって感謝しています。

失敗から学び、ピンチをチャンスに変えて欲しい

「三重大生へのエールをお願いします。」

三重大生は基礎力があるので、やればできます。ともかく「興味のあることを、粘り強く最後までやること」です。そして、さまざまな機会をつかまえて即戦力を磨き、受け身の姿勢から自分の足で歩くことへと発想転換して、実践して下さい。

宮崎冴子先生プロフィール

新卒で高校教諭、子育て中に教育ジャーナリスト、出版社編集部、教育委員会社会教育課、文教大学大学院人間科学研究科生涯学習専攻(学術修士)、文教大学教育研究所客員研究員、東京経営短期大学教授生涯学習センター長(創設)、宇都宮大学教授キャリア教育センター長(創設)、キャリアカウンセラーを経て現職。

「三・七年目の社員に期待する能力」を聞き取り調査しました。とくに「伸びる社員か否か」の問いには「意欲・責任感」と答えた管理職がほぼ〇〇%でした。つまり、専門知識も大切だが、精神的なものが人を突き動かすということが分かります。ですから、精神的な強さや「生きる力」も在学中に培う必要があります。ゼミ、授業や課外学習など、さまざまな体験をしながら、しっかりとキャリア形成、能力開発して欲しいと思います。

「授業を受けて人生が変わった」って言われる

「宮崎先生はどんな授業をされているのですか。」

「考える授業」を心がけています。私は情報を差し上げるが、学生には授業を受けながら考え、整理して、行動に結びつけていく習慣づけを求めています。それは授業を聞くだけの受身の姿勢から、自己に問い合わせて状況判断をして行動に移していく意欲的な人材の育成です。毎週授業の終わりにはコメントを出してもらいます。最初は数行でも、五週目過ぎると裏までびっしり書くようになります。それを次の週に何枚か読み上げます。そうすると、同じ授業を受けているはずなのに、各人が違うことを考えていることが分かります。職場や地域社会に出たら自分と異なる意見の方が多いし、すべて自分の思い通りにならないことを体験して欲しいです。二クラス二百人でも全員一分間スピーチをします。入社試験の面接で落ちると、「たかが五分でわかるのか」と思うでしょうが、授業中にたくさん人のスピーチを聞いて互いに講評すると、「最初の十五秒で話をもっと聞きたいか、イヤもう結構です」と思うかを、はっきり判別できると思います。そうすると面接の二分、一秒がいかに大事か分かるでしょう。私の説明よりも体験すると理解しやすいし、納得すると他の科目で応用することが出来ます。もちろん、先に「人前であがらないで上手に話すコツ」などを理論的に説明しておきます。また、「キャリア・イベント実践」の授業では、企画から講師依頼状、挨拶、司会、進行、報告書までを、この間まで高校生だった年生がすべて行います。最初は大変でも、チームワークが構築できると立派にやり遂げます。二〇二〇年前期には、本書を教科書として「キャリア形成・能力開発」の授業で、学生が「熟議」を主催します。

READING LIST

これだけは読んでおきたい!!各 学部の先生からのオススメ本

人文学部 菅 利恵先生

三原弟平 著
カフカ『断食芸人』
「わたし」のこと
光文社
[所在] 図・開架・図書
[請求記号] 943/Mi 17

男の渾身の一芸は、「食べない」ことだった。「断食」を見せ物にする奇妙な男を描いたカフカの短編『断食芸人』を、平易な言葉で読みとく文学入門書。ぎこちない寓話のようなカフカの作品世界は、不条理でありながらもなぜか痛いほどリアルである。そんなカフカの世界にふれるために格好の一冊。冒頭には『断食芸人』の全編が著者による翻訳で収められている。

教育学部 石谷 寛先生

陳舜臣 著
『中国の歴史』
平凡社
[所在] 図・開架・図書
[請求記号] 222.01/C 46/1-15

中国史を日本生まれの小説家陳舜臣が独自の切り口で語った解説本で、神話の時代から日中戦争の開始までを取り扱っている。隣の大国の複雑な歴史が、豊富な資料をもとに平易な語り口で細かい部分までフォローされている。長いシリーズだが、どの巻から読んでも「小説のような」面白さがあるので、気楽に読むことができる。複眼的な見方を養うために一読をお勧めする。

医学部 堀 浩樹先生

鈴木中人 著
『6歳のお嫁さん：亡き娘から託されたいのちの授業』
実業之日本社
[所在] 図・開架・図書
[請求記号] 114.2/Su 96

子が親より先に逝くことが、親の心に遺すもの大きさを理解することは簡単ではありません。本書は、小児がんで長女を亡くした父親が、子どもから託された命への思いを闘病の様子とともに綴った手記です。「悲しくつらい涙があふれるからこそ、あとに遺る者のいのちを深めてくれます」という一節の意味を、命を感じる心が希薄な時代に生きる皆さんに、深く考えて欲しいと思います。

工学部 松永 守先生

サイモン・シン 著
青木薫 訳
『宇宙創成』
新潮社
[所在] 図・開架・図書・PB
[請求記号] 443.9/Si 8/1-2

文句なしに面白い。この本は、人類がどのようにして現代の動的宇宙像に辿り着いたかを書き綴ったものである。古代ギリシアの地球中心モデルから始まって宇宙背景放射の揺らぎの観測によるビッグバン宇宙モデルの確立に至る道のりを退屈させることなく語っている。説得力があるだけでなく、いろいろな挿話がおこまれている。その部分だけでも楽しめる。あらゆる人々にぜひ勧めたい。

生物資源学部 伊藤 進一郎先生

石橋信義
名和行文 編著
『寄生と共生』
東海大学出版会
[所在] 図・開架・図書
[請求記号] 468.4/Ki 55

「寄生と共生」は本来生物用語ですが、最近「親に寄生する」、あるいは「環境と共生する」などの文章に出会うことがあり、時代とともに幅広い解釈がなされているようです。この書籍では、主に医動物学あるいは生物学的観点から、様々な「寄生と共生」の事例が解説されていますが、「人間と野生生物との共生」といった解説もあり、多くの学生諸君が興味深く読めると思います。

共通教育 荻原 彰先生

鬼頭宏 著
『文明としての江戸システム』
講談社
[所在] 図・開架・図書
[請求記号] 210.07/N 77/19

日本の人口は2050年には8600万人と推定されている。近代化以後、はじめて「縮む社会」を経験する日本のモデルは外国にはなく、むしろ過去にある。「文明としての江戸システム」は統計を駆使し、貧しい専制国家という江戸時代のイメージを覆し、少子化により豊かさを維持し、リサイクルにより資源を保全し、都市が美しい緑に覆われていた定常社会であったことを明らかにしている。